

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 20 年 8 月 14 日

氏名： 布浦 拓郎

所属 (職名)： 独立行政法人海洋研究開発機構 極限環境生物圏研究センター 研究員

会議名	7 th IODP Scientific Technology Panel Meeting
期間 (移動を含む)	平成 18 年 7 月 26 日 ~ 平成 18 年 8 月 2 日
用務地 (国・都市)	カナダ・エドモントン
目的	7 th IODP Scientific Technology Panel Meetingに参加し、今後のIODPにおける科学計測について議論する

会議内容及び報告事項

日本からの出席者

(STP 委員) 池原 実 (高知大学)、斎藤 実篤 (海洋研究開発機構)、成瀬 元 (千葉大学)、布浦 拓郎 (海洋研究開発機構)、林 為人 (海洋研究開発機構)
(リエゾン) 河村 裕 (IODP-MI)、江口 暢久 (CDEX)、Moo Kyaw Thu (CDEX)、倉本 敏克 (マリンワークジャパン)、村木 広明 (マリンワークジャパン)
(ゲスト) 稲垣 史生 (高知コア研究所)

【会議内容】

事前に配布されたアジェンダに従い議事が進行し、全体での議論の他、分科会に分かれた議論を行った。退任委員及び開催地ホストへの感謝を含む、以下の Recommendation、Consensus、Action item を決議した。以下に決議とその概要を列記する。

STP Consensus Statement 0807-01: LIMS Test Drive and Update

USIO から示された SODV における analytical and data management system に対する理解と今後の更なる報告への期待を示した。

STP Consensus Statement 0807-02: Magnetic Susceptibility Tool and Downhole magnetometer Proposal

USIO に対し、新規 Magnetic Susceptibility Tool の開発成功に謝意を示し、その IODP での運用に期待を示した。また、Downhole magnetometer の開発提案に対する理解と今後の開発への期待を示した。

STP Consensus Statement 0807-03: Update on the Chikyu

ちきゅうの現状報告を理解すると共に、CDEX に対し 3 項目の質問を行った。

STP Consensus Statement 0807-04: QA/QC Implementation and Reporting

各サイエンスパーティーが QA/QC について Expedition Report に責任をもって記述することを求めるなど、QA/QC について 4 項目の意見表明を行った。

STP Consensus Statement 0807-05: 3rd Party Tools QA/QC

3rd Party Tools document を 3rd Party Tools and Instruments と名称を変更するよう求めた。また、この document について、適切な QA/QC 方法論及び関連するメタデータを定義し記録するよう求めた。

STP Consensus Statement 0807-06: Reference Collections and Database Lists

IODP-MI に対し、reference material の充実と保管に対し、指導力を発揮するよう求めた。

STP Consensus Statement 0807-07: Report from EDP

今回欠席した Colwell (STP liaison to EDP) に代わり EDP 報告を行った Sean Higgins (USIO) に対して謝意を表した。

STP Consensus Statement 0807-08: Depth Scales : Errors and Corrections

STP Consensus Statement 0802-08: Core-Log Seismic Integration に従い、IODP-MI が各 IO に対し IODP Depth Scales: Errors and Corrections document (June 14, 2007, Draft version 1.0) への対応を示すよう求めた。

STP Consensus Statement 0807-09: Microbiology in IODP

IODP-MI Microbiology Task Force Report についての発表に謝意を示し、IODP における microbiology の発展に至急の行動が必要であることを STP が認識していることを明らかにした。

STP Consensus Statement 0807-10: Formation Factor Determination

STP は微生物活性を把握するに必要な要素である Formation Factor を恒常的に決定することの必要性を認識した。しかし、データの精度の確保に疑問があり、IODP-MI が各 IO、更に物性計測や微生物研究のコミュニティーと連携し、Formation Factor 算出の適切な手法を明らかにするよう求めた。

STP Consensus Statement 0807-11: Dissolved Inorganic Carbon (DIC)

STP は現場 pH を求め、微生物活性を正確に決定する手段として DIC 測定の重要性を認識し、Standard measurement list の porewater chemistry の測定項目に加えるよう求めた。また、Microbiology Taskforce に対し、検出限界や適切な測定装置についての情報を、各 IO へ提供するよう求めた。

STP Consensus Statement 0807-12: Microbiology Routine Sampling for Frozen Preservation

STP は Microbiology Task Force の提言する堆積物及び基盤岩の-80 度以下での凍結保存を恒常的に行うことの必要性を認めた。また、その恒常的な冷凍保存試料の採取手順等の大枠を提言した。

STP Consensus Statement 0807-13: Microbiology/Biogeochemistry Perception

恒常的な凍結保存試料の採取は、船上研究者による理解を得られないことがあり得る。従って、IODP MI あるいは IO, 更に微生物研究者による、船上研究者への情報提供と教育が恒常的な凍結保存試料の採取には欠かせないとの認識を示した。

STP Consensus Statement 0807-14: Microbiology Inclusion and Outreach

IODP-MI へ、各 IO や task force との連携のもと、サンプルリクエストフォームに microbiology を加えること、また、ウェブを通じてのサンプルへのアクセス向上を図ることを求めた。

STP Consensus Statement 0807-15: Submission to International Database and Banks

Microbiology Task Force の提言に従い、投稿された全ての塩基配列データが、適切なサポートデータと共に、国際的な塩基配列データベースに登録されるよう、また、投稿論文中の全ての培養菌株を公的菌株保存機関に寄託されるよう求めた。

STP Consensus Statement 0807-16: EDP Microbiology Contamination Issues

EDP action item 0807-08: Microbial Contamination of Core, establishing a Microbiology Contamination Working Group に謝意を示し、Colwell をこの Working Group の STP (electric)リエゾンとして推薦した。

STP Consensus Statement 0807-17: Kochi Microbiology Repository and Long Term Frozen Sample Storage

KCC からの提言に謝意を示した。また、STP は恒常的な凍結試料の保存について早急に進める必要性を認識しているが、このプロジェクトを進めるに必要なコストについて IODP-MI, KCC を含む各 IO に対し、費用計算を進めるよう要請した。

STP Consensus Statement 0807-18: Nomination of a Microbiologist for CAB

David Smith (URI), John Baross (UW), Takuro Nunoura (JAMSTEC) を CAB の候補として推薦した。

STP Consensus Statement 0807-19: STP Liaison to EDP

EDP 及び STP roadmap には重複が避けられない。したがって、roadmap に従って効率的に技術開発を進行させるため、必要に応じ EDP-STP 間でリエゾンを相互に送ることを提言する。

STP Consensus Statement 0807-20: STP Roadmap

EDP 及び STP roadmap 間には重複と共に独自性が存在する。EDP-STP が互いの roadmap を発展させるため、相乗効果の期待される項目について相互協力を進めることを提言する

STP Consensus Statement 0807-21 & 22: Clive Neal を STP chair に、Saneatsu Saito を STP Vice-chair に推薦した。

STP Consensus Statement 0807-23 -26: STP ホストの Schmidt、今回限りで退任する Christensen, Castello, Lovell への謝意が示された。

Action Item 0807-27: Scientific Technology Roadmap

引き続き STP roadmap の作成を進め、その中では EDP との連携の必要性にも言及する。

次回会議の開催

2009 1/7-9 にハワイで開催される。また、次々回は 6/22 の週に韓国で開催されることが内定した。